

平成26年度国立吉備青少年自然の家教育事業

子育て支援ハートフルキャンプ[®]

1回目 平成26年 5月31日(土)～ 6月 1日(日)

2回目 平成26年11月29日(土)～ 11月 30日(日)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

不登校などの子育ての悩みがある家族に応じた活動プログラムを提供し、体験活動を通して、子育てについて考えたり、親子や参加者間、関係機関等との人間関係をつないだりして、子育て支援を行う。

2. 事業の概要

(1) 期日

1回目 平成26年 5月31日(土)～ 6月 1日(日)

2回目 平成26年 11月29日(土)～ 11月 30日(日)

(2) 募集人員, 対象

子育てについての悩み(「不登校気味である」あるいは「現在不登校」等)がある小学生の保護者とその家族各回8組程度

(3) 参加者

<1回目> 3家族9名(岡山県2家族6名, 広島県1家族3名)

	家族1	家族2	家族3	合計
対象児童	1名(小6)	1名(小5)	1名(小5)	3名
保護者	2名	2名	1名	5名
兄弟姉妹	0名	0名	1名	1名
合計	3名	3名	3名	9名

<2回目> 11家族37名(岡山県9家族28名, 広島県2家族7名)

	家族1	家族2	家族3	家族4	家族5	家族6	家族7	家族8	家族9	家族10	家族11	合計
対象児童	1名 (小4)	1名 (小5)	1名 (小2)	1名 (小5)	1名 (小2)	2名 (小4) (小1)	1名 (小2)	1名 (小5)	1名 (小4)	1名 (小5)	2名 (小4) (小2)	13名
保護者	2名	2名	1名	1名	2名	1名	1名	1名	2名	1名	2名	16名
兄弟姉妹	0名	0名	0名	0名	1名	0名	1名	0名	2名	2名	2名	8名
合計	3名	3名	2名	2名	4名	3名	3名	2名	5名	4名	6名	37名

(4) 講師

・実行委員会委員

- 松浦 孝昭 氏 (岡山県総合教育センター 生徒指導部指導主事)
- 渡邊 誠二 氏 (学校法人おかやま希望学園 学園長)
- 山下 弥生 氏 (一般財団法人河田病院 臨床心理士)
- 木村 都 氏 (NPO法人KUKKA 副代表理事)

・交流会

- 松浦 孝昭 氏 (岡山県総合教育センター 生徒指導部指導主事)
- 渡邊 誠二 氏 (学校法人おかやま希望学園 学園長)
- 山下 弥生 氏 (一般財団法人河田病院 臨床心理士)
- 木村 都 氏 (NPO法人KUKKA 副代表理事)
- 大平 洋 氏 (学校法人おかやま希望学園 保護者)

・ツリーイング指導

- 藤原 基勝 氏 (遊木皆)
- 長瀬 えみ 氏 (遊木皆)

(5) 企画・運営のポイント

- ・4年目の実施を迎えたことから、モデル的プログラム開発の総括を視野に入れながら、企画・運営の在り方をより充実させるために今年度も実行委員会を立ち上げ、活動プログラムや広報活動等について助言をいただいた。実行委員については、不登校問題に関わる学識経験者や活動団体員など幅広い立場から助言をいただけるよう人選した。キャンプ当日は講師として実行委員やおかやま希望学園の保護者にも参加していただき、保護者の立場からも児童の成長や進路など具体的な悩みについて相談や助言をいただけるようにした。
- ・広報活動は、県内市町村の教育委員会や適応指導教室、関係機関をはじめ校長会に直接訪問し、趣旨説明や申込書を置かせてもらうようにした。
- ・実施時期については、前年度、11月と2月にそれぞれ2泊3日の2回を企画したが、反省から今年度は1泊2日を2回実施することとした。前年度は2回とも寒い時期(11月・2月)に実施していたものを1回目の開催を5月とし新学期が始まり不登校傾向が強くなる時期に設定した。また2回目の開催は11月とし参加者に道路の凍結などの不安がない時期として、季節の変化を感じられるようにした。
- ・1人ひとりの参加者や保護者が安心して参加できるように、事前に実行委員の山下弥生氏を講師にボランティアスタッフの研修会を設け、参加者の特性や支援の在り方等を学んだ。
- ・参加者が自分のペースで活動に取り組めたり活動の中で参加者同士の交流ができたりするように活動にゆとりをもてる時間配分とした。

3. 活動の内容等

○活動の状況

【1回目】平成26年5月31日（土）～6月1日（日）

1日目		2日目	
時程	活動	時程	活動
9:30	受付（～9:45）	6:15	起床・洗顔
10:00	ツリーイング	6:45	掃除
12:00	昼食	7:15	朝のつどい
13:00	開会式	7:30	朝食
13:15	オリエンテーション	8:30	片付け
13:30	アウトドアクッキング ダッチオーブンをを使ったアウトドア クッキング	9:00	点検
	*15:30 ごろからペットボトルランタン 作りを行います。	9:30	選択活動 ・マウンテンバイク ・樹木ビンゴ ・クライミングウォール ・フォトOL ・スコアOL ・ウォークラリー ・カプラ
19:00	天体観察等・ナイトハイク （雨天・キャンドルボード） 子どもたちが活動をしている時は、保護 者は交流会をします。	12:00	昼食
		13:00	休憩
20:30	入浴	13:30	ふりかえりタイム ・写真立て作り
22:00	就寝	15:00	閉会式
		15:30	解散

1回目は、全日参加が1家族。1日目の夕方からの参加が1家族。2日目からの参加が1家族であった。

全日参加の対象児童は、ツリーイングは初めて挑戦する活動で不安が高まり興味を持って活動することができなかった。

午後の活動は、ローストチキンとパン作りに取り組んだ。パンをこねたり炭で火をおこしたりマッシュマロを食べたりする中で、児童は気分が変わり積極的に取り組み、活動を楽しむことができた。

夜の活動に、最初は気分が乗らなかったが、LEDライトを作るなど別の活動に変更することで気分が変わり活動することができた。

保護者交流会では、当日の児童の活動の様子から今後の支援について話や進路についての話をした。

2日目の午前中は、本所の活動プログラムの中から、興味関心のある活動やできそうな活動を選んで行った。マウンテンバイクを選択した家族が1家族、クライミングウォールを選択した家族が2家族あった。

クライミングウォールに何度も挑戦したり、保護者が登っているのを応援したりする児童の姿もあれば、クライミングウォールの活動になかなか気分が乗らず、活動を変えてボードゲームやカプラに挑戦する児童の姿もあった。

マウンテンバイクを選択した児童は、昨年度、マウンテンバイクが天候不順で中止とな

っており、マウンテンバイクに挑戦することを非常に楽しみにしていた。1番長いコースにチャレンジし完走できると、達成した充実感でいっぱいになっていた。

2日目の午後は、写真立て作りと感想文を書いた。写真立ては、自然物を使った写真立てとラミネートを使った写真立ての選択とした。継続して参加している家族は、より工夫した写真立てを作っていた。



[ツリーイング]



[パン作り]



[アウトドアクッキング]



[選択活動：カプラ]



[選択活動：マウンテンバイク]



[写真立て]

【2回目】平成26年11月29日（土）～11月30日（日）

1日目		2日目	
時程	活動	時程	活動
9:30	受付（～9:45）	6:45	起床・洗顔
10:00	ツリーイング	7:15	掃除
12:00	昼食	7:45	朝のつどい
13:00	開会式	8:00	朝食
13:15	オリエンテーション	9:00	片付け
13:30	アウトドアクッキング ダッチオーブンをを使ったアウトドアクッキング	9:30	点検
	*15:30 ごろからサラダオイルランタン作りを行います。	10:00	選択活動 ・マウンテンバイク ・樹木ビンゴ ・クライミングウォール ・フォトOL ・スコアOL ・ウォークラリー ・カプラ ・落ち葉クラフト
18:30	入浴	12:00	昼食
19:30	ボードゲーム・天体観察等 子どもたちが活動をしている時は、保護者は交流会をします。	13:00	休憩
21:00	就寝準備	13:30	ふりかえりタイム ・写真立て作り
22:00	就寝	15:00	閉会式
		15:30	解散

（2回目）

2回目は、11家族の参加があった。

最初の活動は、ツリーイングであったが、早朝に雨が降り場所を屋内に変えロープクライミングを行った。親子で、並んでロープを登ることで、互いに励ましたり誉め合ったりしながら登ることができた。

午後は、アウトドアクッキングを行った。今回、参加家族が多いことを踏まえ、班ごとに調理を行った。班にしたことで児童同士、家族同士が、少しずつ打ち解ける姿が見られた。餅つきでは、児童が積極的に取り組む姿が見られ、自分のつく順番が来るまで、自発的に列を作って待っていたり、餅をつく児童にかけ声をかけたりする姿が見られた。

夜は、自分の心と体に合った活動を選択できるようにした。ナイトハイクと天体観察を行うコースと室内で読書やボードゲーム等を行うコースと選択できるようにした。各コースともボランティアスタッフと一緒に楽しむことができた。

保護者は、「保護者プログラム」として1回目同様、実行委員やおかやま希望学園の保護者を交えての交流会を行った。参加者から日々の対応などの質問に対して実行委員や他の保護者がアドバイスをしたり、保護者同士で情報交換を行う場面が見られたりした。

2日目の午前中の選択活動では、各参加児童とも自分がチャレンジしたい活動を家族と一緒にいき、汗をかくほど体を動かすことができた。

午後からは、写真立て作りを行った。3種類の写真立ての中から選択して作れるように準備し、各自の好みに合わせて作品を作った。保護者が児童にアドバイスをしたり手伝ったりしながら、作品を作っていた。



[ロープクライミング]



[アウトドアクッキング]



[餅つき]



[夜の選択活動：ボードゲーム]



[選択活動：クライミングウォール]



[写真立て作り]

4. 成果・課題

(1) 成果

- ・これまで以上に広域に継続的に募集広報したことや、これまでの参加者や実行委員による勧誘の結果、募集定員を上回る応募があった。
- ・学識経験者（臨床心理士，指導主事，関係機関職員，かつて不登校児で悩んだ保護者など）の適切なアドバイスは参加保護者の悩みに対して大きな支えとなった。
- ・参加児童や保護者同士の交流があった。児童は互いに誘い合って活動をする場面が見られた。また，閉会式で感想を発表し合う場面では，互いに感じていることや，継続して参加している家族間で成長を認め合う姿を見ることができた。
- ・参加した児童の中に，親元を離れて集団宿泊体験活動を行う民間団体事業にチャレンジすることができた。
- ・実行委員が所属する岡山県総合教育センターが開設する教育相談に親子で訪れた際に当施設に立ち寄り活動する姿が見られるようになった。

(2) 参加者の声

【1回目】 満足度・・・100%

(参加者自由記述)

- ・子供の気持ちが乗らず，アクティビティに参加を渋った時，「他に〇〇や〇〇はどう？」と複数の提案をしていただけたのがとても助かりました。強要なし。参加できないことをとがめられることもなし。自分のやりたいことを見つけられかつ楽しめる経験は他になかなかありません。最終日まで参加できて何よりです。
- ・新規のご家族，ボランティアさんとも人見知りせずに普通に接することができるのを目の当たりにすることができました。

【2回目】 満足度・・・100%

(参加者自由記述)

- ・毎年、参加させていただいていると子供の成長の様子もよく分かってうれしいです。他の参加者のご家族とも会えるのが楽しみです。日常の悩みやつらさを忘れて、リフレッシュさせていただきました。
- ・子供の興味とレベルに応じて丁寧にプログラムが考えられていて楽しくすごせました。家族ごとにボランティアがついてくださったのが、不安無く緊張も最初から和らいでとても良かったです。子供が生き生きしていたのが、1番。他の保護者のお話が聞けたのもとても良かった。
- ・講演会など長時間では、子供の託児もなく、情報を入れるには制限がありますが、こうした取組は親子共々、また家の他の家族（来ていない家族の休息）のためにもとても有意義だと思うので、ぜひぜひ続けてほしいです。ふつうのボランティアではなく、特性を学ばれた方々が入ってくださることにとってもありがたく感じました。
- ・同じような悩みをお持ちの方々ばかりなので、子供たちへのまなざしが優しく寛容でリラックスしてすごせました。ボランティアの皆さん、子供たちとの距離の取り方が上手でした。
- ・日常生活では、つつい子供への注意や助言を必要以上にしてしまいがちですが、今回のキャンプを通して、子供の自主性をもっと大事にしようと思いました。
- ・子供がとても生き生きして元気いっぱいを楽しんでいるのを見て少し安心しました。

(3) 今後の課題等

- ・ハートフルキャンプの終了後の追跡調査を通して、参加した児童、保護者に応じた当施設して提供できる活動プログラムの在り方を探りたい。
- ・県北部地域への広報に重点をおいて取り組んでみたが、応募が少ない。さらに参加していただくための工夫が必要と考える。
- ・4年間で培ったプログラム開発を報告書にまとめ、他の青少年教育施設が今後の取組の参考にしていただき、そこから得られた意見をもとに不登校問題のさらなる解決に向けて、このキャンプのブラッシュアップを図っていきたい。

担当：企画指導専門職 飯石 浩二